

## お医者さんも来なくなる地域づくり 「あえて敵をつくらない」

秋田県鹿角市で、「お医者さんも来なくなる地域（まちづくり）」の実践が本になりました。

著者は、秋田県厚生農業協同組合連合会の職員で、鈴木土身（どみ）さん。鈴木さんの父・鈴木文熹（あやき）さん（故人）は、鶴岡市とも深い関わりがありました。

秋田県厚生連が運営するかつの厚生病院（鹿角市）で2006年、医師を派遣していた岩手医大が人員不足のため、精神科の常勤医師を引き上げ、医師がいなくなりました。厚生連の労働組合が事態を住民に知らせるために、1万5000枚のチラシを全戸配布

し、住民から「医療がなくなることは、もうこの地域には住めないということだ」との便りが寄せられました。緊急に住民集会を開催し、地域を守るために、住民が主体となつて「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」を設立します。

## 鶴岡市議会が7月大雨被害で13日に県知事に要望書を提出

鶴岡市議会（議長・本間新兵衛）は7月28日の大雨被害で、13日に吉村美栄子県知事に要望書を提出します。

黒瀬川や京田川、藤島川の治水事業や、青龍寺川と内川の内水氾濫の対策を求めます。

山形県知事  
吉村 美栄子 様

### 要望書

(令和2年7月28日大雨被害に関する要望)



令和2年11月13日

鶴岡市議会議長 本間 新兵衛

### 医師を求めるチラシ

会の当面の目標は「医師の確保」。

そのための方法は、①誰かに探してもらうか、②自分たちで探すしかない。

①は県知事宛の署名に取り組み、②は住民と行政、病院の連盟で「医師を求めるチラシ」をつくって、広く全国に発信する。

チラシは全国の「道の駅」など406か所に置き続けることまでやりました。

チラシを見た医師が「応援診療」にかけつけ、話題が広がり、18年には2人の精神科常勤医師が赴任しました。

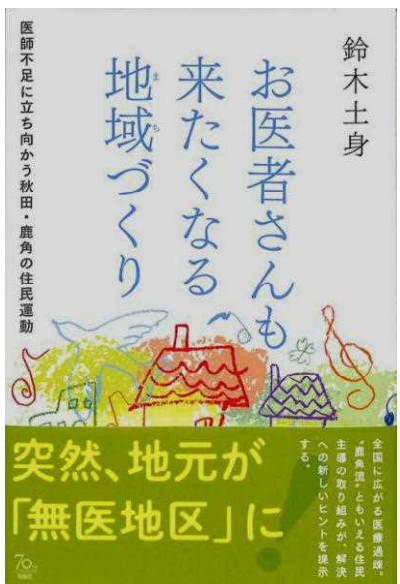
### 大学の派遣ではなくフリーの医師

しかし、この年はまた、同病院から産婦人科医師が撤退し、市民町民の会は、新たな住民団体「鹿角の産婦人科を守る会」とともに運動を進展させます。

精神科医2人は大学から派遣されたのではなく、フリーの医師でした。フリーの医師が「ここで働きたい」と思う

鈴木土身

お医者さんも来なくなる地域づくり



お医者さんも来なくなる地域（まちづくり）鈴木土身著（旬報社 1430円）

ような地域をつくるしかないということだ。「医師を探してくる」取り組みから「地域をどうつくるか」を主題にしていきます。

### 敵をつくらない

運動のコンセプトは、「あえて敵をつくらない住民運動」です。

医師がいなくなった住民の怒りの矛先は病院長や市長、大学などへ向けられますが、よく考えてみると、病院・行政・大学医局も国の医療政策の被害者であり、大なり小なり困っている。

大事なのは「困っている者たちが困っていることを共有し、大同団結すること」と。

### 安心して暮らせる

私（加藤鉦一）がこの本を読んで思ったことは、「敵をつくらない」ということが地域づくりの重要なヒントかも知れないということだ。

医師は都会に集中しています。しかし、都会はヘイト（憎しみ）スピーチがあり、格差によるストレスが攻撃性を生む社会になって、

嫌気がさしています。

鹿角市の市民町民の会は、「悪者をつくり責める相手をつくれれば、お医者さんを迎える環境がつかれないと気づいた」と言います。

「敵をつくらない」安心して暮らせる地域をつくる運動が、「お医者さんも来なくなるまち」だということです。

一方、鶴岡市議会では、合併離脱を理由に三川町をゴミ処理問題でイジメたり、自民党市政を転換した皆川市長に対する攻撃的な質問が目立ち、反省すべきではないでしょうか。

### 父・鈴木文熹さん

鈴木さんの父の鈴木文熹（あやき）さんは、「地域づくりと協同組合」などの著書がある農業問題研究家でした。

1970年代の庄内労働大学の常勤講師的な存在でもありました。今から40数年前、第2次構造改善事業では、藤島地区に農村調査に入り、藤岡のライスセンター建設や須走の畜産団地などの先駆的取り組みで、当時の生産組合長だった高橋純一さん（藤岡）と何度も語り合った姿が思い出されます。



今年で5年目となる  
藤島歴史公園「Hisu  
u花（ヒスカ）」のイル  
ミネーションが、11月  
3日点灯されました。

# 藤島イルミネーション2020 庄内最大 15万個のひかり 令和3年1月11日（月曜）まで点灯



眺望  
其六

日月不淹春邁秋  
風車弗動見啾瀕  
眺望順氣蕭蕭改  
何処移時独未休

眺望  
其の六

日月 淹しからず春 邁て秋  
風車 動かず啾瀕を見る  
眺望 氣に順がつて蕭蕭として改まり  
何れの処か時を移して独り未だ休まず

城貞（藤の花）

月日はあつという間に過ぎさつて、春になったかと思えばもう秋だ。秋空を見ると休むことのない風車が止まっていて、渡り鳥の白鳥が泣きながら飛んでいるのが見える。景色を見ると天地の自然現象に従つて、ものさびしい秋の気配に改まり

あの白鳥どこにいるのか、時間がたつても声だけは止む様子がない。眺望Ⅱみはらし。淹Ⅱ久しくとどまる。邁Ⅱ過ぎ行く。啾Ⅱ鳥の鳴き声。瀕Ⅱ白鳥。順Ⅱ従う。氣Ⅱ天地の自然現象。蕭蕭Ⅱものさびしいさま。移時Ⅱしばらくして。

## 世界の国々 日本 核兵器禁止条約発効でどうするか。たばこのように 青山崇

核兵器禁止条約が1月22日発効する。どこに意義があるのか。これまででの安全保障

あった。それが「人類中心」に大転換するの

こと、いわば哲学的なこと、

ことを決めている。

一つは、核兵器は「悪烙印を押していること。国際法ではじめてである。

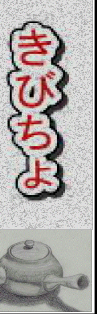
2つは「全く役に立たないもの」であること。

そつした例はすでにたばこにある。

どこでも吸つていたが、体に悪いことが常識になり、ほとんどの場所

で禁止されている。核兵器もたばこのように、悪で、なんの役にも立たないことを広め、

唯一被爆国・日本も批准するよう運動を進めよう。



大きな片手落ち

GoToトラベルは、東京も加わつてコロナはどうなつていくんだらうか。俺は利用しないから・遠くに行かないから安心とはいかなくなつたんだ。危険は知らないうちに近づいているんじゃないかと。

▲東北一円の会合を開こうと言つても、青森・秋田の皆さんは、南下するのは嫌だと言つているという。気持ち

はわかるが、これも同じことじゃないか。72時間以内とは言え、今度は外国からも人が入つてくること。

▲感染の心配はないのか、トラベルの利用者は多いと報じられている。曰く・大きな旅行者の弁。立て替え金が億を超えて、国からいつ入るか分からず困つてると言つ程。

▲報道によれば、せつかく割り引いてくれる

んだから、大きく贅沢をしようというわけで、いつもは泊まれない豪華なホテルで、食つたことのない食事を求めて、という事のようにだ。これを何回も使う幸せな人もいると言つ。

▲反対に俺なんか、忙しいのと金がないのと合わせて、インターネットが無いつてきている。だからトラベルは使えないんだが、俺の事はマァいいとしてダ。

▲俺たちからの税金を億だか兆だか使つんだろ。人が動かないと金が回らないからトラベルを全否定はしないがヨ、非正規などコロナで雇止めになつたりで、オマンマに困つている人が大勢いるでしょう。そういう人達をどうしてくれるんだよ。この人達だつて国税Ⅱ消費税は納めて・いや取られてるんだからサ。▲このままじゃ、大きな片手落ちと言われますぜ。（石川）